

2026年度 第22回神奈川産学チャレンジプログラム 実施要綱

一般社団法人神奈川経済同友会

はじめに

神奈川産学チャレンジプログラムは、一般社団法人神奈川経済同友会（以下「同友会」という）の会員が所属する企業および団体（以下「企業」という）と神奈川県内の大学が中心となって行う、産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究コンペです。

本プログラムは、PBL（Problem Based Learning）の手法を応用し、企業が抱える経営課題をテーマにあげ、それに対して学生チームが自主、能動的に研究して実践的で実効性のある解決策を研究レポートとして提示するもので、実社会で発生している問題に具体的に取り組むことにより、問題解決能力の高い人材の育成につながります。

また、企業と学生とが1つのテーマに沿って交流を持ち、意思疎通を図ることにより、就職等でのお互いのミスマッチをなくし、学生にとっては生きたビジネスの世界を知り得ることとなり、企業にとっては学生のアイデアを事業のヒントとして活かせる好機ともなります。

I. 趣 旨

本プログラムは、企業が日常の経営課題の中から実践的な研究テーマを挙げ、神奈川県内に拠点を置く大学が中心となって、各テーマにチャレンジする学生を募り、提出された研究成果に対して企業が審査を行い、優秀なレポートについては企業、大学、学生等の関係者による表彰式において、その努力、才能を評するものです。

本プログラムの特徴として、次の点が挙げられます。

1. 企業、大学、学生による産学連携の形で実施され、学生の自主的な参加による学生主体のプログラムです。
2. 多岐にわたるテーマは、社会・人文科学系あるいは技術系を問わず、学生にとり、広く研究が可能であり、企業の担当部署と連携して作業を進めていく過程が、学生個々の能力開発や自己啓発の場として活かされます。
3. 企業にとっては知名度のアップや学生の斬新なアイデアの取込み、優秀な人材の発掘、大学にとっては学内の活性化と企業が目指す方向性の認識等の波及効果が期待できます。

II. 経緯

同友会の教育文化委員会では、2002年5月、学生の職業や労働に対する意識と企業の求める人材とのギャップやミスマッチの解消のための諸施策を企業、大学へ提言しました。

2003年1月末、県内5大学、すなわち横浜国立大学、横浜市立大学、関東学院大学、神奈川大学、東海大学との間で産学連携のあり方を検討するための「神奈川産学懇談会」を発足させ、その連携の一つの試みとして、学生の柔軟な発想・創造性を引き出すことを目的に、2004年に「第1回神奈川産学チャレンジプログラム」をスタートさせました。大学5校、企業21社、学生57チーム・212名の参加により始まった同プログラムは、その後、順調に発展・拡大。2020年はコロナ禍により中止いたしましたが、2021年に再開し、以降毎年開催。第21回となった2025年は、大学18校、企業36社、学生185チーム842名の参加があり、厳正な審査を経て、2025年12月16日、パシフィコ横浜で行われた表彰式において最優秀賞24チーム、優秀賞43チームが表彰されました。

III. 実施概要

1. スケジュール

(1) 参加大学募集ならびに参加企業募集・テーマ募集

→ 2月12日(木) 募集開始、締切3月9日(月)

→参加を検討されている大学・企業に、同友会より、実施要綱、応募書類フォーマット一式をお送りします。特に参加企業は、同時にテーマの提出がありますので、テーマの検討は早めにスタートしてください。

(2) 参加者説明会の開催 → 3月19日(木)

→同友会が、参加大学および参加企業に対して、本プログラムの説明会を開催します(オンライン)。

(3) 参加大学における学生チームの募集 → 募集開始は説明会以降、締め切りは5月1日(金)

→参加大学は、説明会終了後、学生に対して参加の募集を行っていただきます。学生チームの応募は、PC、スマホを通じて学生チームより直接行っていただきます。

(4) 研究テーマの決定 → 5月下旬に決定

→同友会・参加企業・参加大学による調整を経て、学生チームに研究テーマを割り当て、決まり次第、その結果を参加企業および参加大学に報告します。

(5) 参加企業による学生チームへの説明会 → 研究テーマ決定後から6月末までに実施

→参加企業は、テーマに関する説明会を、学生チームに対し速やかに実施してください。

- (6) 学生チームの研究レポート作成 → 作成期間は説明会終了後～9月末
→ 学生チームは、説明会終了後、9月末を目処に、研究レポートの作成を行います。完成した研究レポートは、各大学が定めた提出期限までに所属する大学に提出します。
- (7) 参加大学より同友会に研究レポート提出 → 同友会への提出期日10月5日(月)
→ 参加大学は、提出された研究レポートをとりまとめて、期日までに同友会へ提出します。
- (8) 参加企業による審査 → 審査期間は10月中旬～、同友会への審査結果提出期限11月17日(火)
→ 同友会より参加企業あて研究レポートを提出します。参加企業は、レポート受領後、レポート審査、プレゼン審査を実施し、期日までに審査結果を同友会に提出していただきます。
- (9) 同友会より審査結果を参加大学・学生に通知 → 11月下旬
→ 同友会は、該当チームの審査結果を参加大学に通知します。参加大学は、審査結果を各チームに通知していただきます。
- (10) 表彰式 → 12月15日(火)
→ 表彰式には、最優秀賞および優秀賞を受賞したチームを招待し、参加企業より賞状・賞金を授与していただきます。会場はみなとみらいの「パシフィコ横浜 アネックスホール」を予定しております。

2. 学生チーム編成

- (1) チーム構成人数は、原則4～6名とします(編成上やむを得ない場合に限り3名可とします)。
- (2) 学生チームには、リーダーとサブリーダーを1人ずつ置いてください。
- (3) 同じ学生が、複数のチームに所属することはできません。
- (4) 研究テーマ決定後にメンバー変更のあった場合および途中棄権する場合、学生チームは、大学・企業に速やかにご連絡ください。なお、レポート提出後のメンバー増員は、やむを得ない場合を除き、認められません。

3. 研究テーマの決定・レポートの作成

- (1) 参加企業は、提示テーマ報告書を作成し、参加申し込み時に同友会に提出します。
提示テーマ報告書の「審査の進め方について」欄には、「審査方法や審査の考え方(審査基準)」について、現時点で決まっている範囲で記載してください。

- (2) 学生チームは、参加企業の提示するテーマの中から、希望するテーマ（第一希望、第二希望3テーマ）および希望する業種もしくはジャンルを選択し、応募の際に同友会宛提出します。
- (3) 学生チームが取り組むテーマは、学生チームの希望をもとに、参加企業、同友会が選定します。
- (4) 応募学生チーム総数が、参加企業の受入チーム合計数を上回ったときは、同友会より参加企業、参加大学に調整をお願いすることがあります。調整後においても、最終的に全ての学生チームにテーマを割り当てられない場合がありますので、予めご了承ください。
- (5) 参加企業は、テーマに関する説明会を、学生チームに対し速やかに実施してください。説明会では、審査方法・審査基準について、必ず学生チームに直接お伝えください（提示テーマ報告書提出時点で「審査方法・審査基準」が定まっていない場合でも、企業説明会実施日には説明ができるよう定めてください。報告書記載事項に変更があった場合は、説明会で参加学生に直接伝えてください）。
- (6) 学生チームは企業による説明会后、レポート作成に取り掛かってください。レポート作成にあたっては、レポート作成規程を遵守してください。参加企業は中間報告を課すなど、学生チームに対し、レポート作成期間中のフォローを行ってください。
- (7) 学生チームは、作成したレポートを大学の定めた提出期限までに、大学あて提出してください。

4. 審査

- (1) 学生チームから提出されたレポートは、大学・同友会を經由して、参加企業に提出されます。企業提出後の内容変更はできません。
- (2) 参加企業には、学生チームからのレポート受領後、各参加企業が定めた審査方法・審査基準に基づいて、遅滞なく審査を行っていただきます。なお、審査は必ず複数人で行うようお願いいたします。
- (3) 参加企業は、審査結果を得点化し、入賞（「最優秀賞」、「優秀賞」）チームを選定してください。その場合の「審査方法や審査基準」および「表彰チーム選考」については、実施細則（企業）を参照にしながら、各企業で定めてください。
- (4) 上記の賞以外に、参加企業が独自に表彰を行うこともできます。
- (5) 参加企業は、入賞チーム、選外チームの如何にかかわらず、個別審査表の講評欄への記載等を通じて、学生への審査結果のフィードバックの充実に努めてください。

5. オープンバッジの発行

レポート提出状況やプレゼンテーション審査への参加状況等を勘案して、企業が「修了に値する」とした学生チームの参加学生（希望者のみ）に「オープンバッジ（※）」を発行します。プログラム応募時に、参加学生一人一人に対し、オープンバッジ発行の希望の有無を確認します。

※「オープンバッジ」とは、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークが運営管理する「学習デジタル認証」。「最優秀賞」「優秀賞」「修了」の三種類のバッジを発行します。

6. 費用負担

- (1) 参加大学は、プログラムへの参加費として、1校あたり10万円（ただし参加チームが5チーム以内^(注)の場合は8万円）のご負担をお願いします。
(注) 参加チーム数は、取り組みテーマの確定した時点のチーム数とします。したがって、第1希望・第2希望テーマに決まらないため辞退されたチームは、参加チーム数に含めません。
- (2) 参加企業は、プログラムへの参加費として、1社あたり12万円のご負担をお願いいたします。
- (3) 参加費は、参加チームの取り組みテーマ確定後、各参加大学、参加企業宛、請求させていただきます（10月を予定）。
- (4) 入賞チームには、参加企業より賞金（最優秀賞8万円、優秀賞4万円）を、表彰式にて授与していただきます。
- (5) レポート作成に係る研究調査費（印刷費、通信費、交通費等）は、各チームの自己負担を原則としますが、参加企業からの要請に基づき実施するもの等に関しては、企業負担もご検討下さい。

7. 遵守事項

- (1) 著作権の帰属
 - A. 学生チームのレポート（以下、プレゼン審査の資料を含む）の著作権等知的財産権に関する全ての権利は、参加企業に帰属するものとします。また、学生チームはレポートに関し、著作者人格権を行使しないものとします。
 - B. 研究成果に知的財産権が発生する可能性がある場合、その取扱いについては、各参加企業が決定するものとします。

(2) 個人情報管理の徹底 (参考) 神奈川経済同友会HP「個人情報保護方針」

- A. 参加企業は、学生の個人情報を厳正に管理し、本プログラム終了後は各企業が責任をもって速やかに廃棄します。
- B. 参加企業は、取得した個人情報を、本プログラム以外の用途で使用しないよう徹底します。

(3) その他

- A. 参加大学・企業は、届出事項等の変更があった場合、学生チームからメンバー変更等の報告があった場合、その他運営上共有化しておいた方が良いと判断される事由が生じた場合には、速やかに同友会に報告します。
- B. 学生チームは、実施要綱・実施細則に違反する行為、アイデアの盗用、第三者の知的財産権の侵害、その他法令違反、迷惑行為等を行ってはならない。これらの事実が認められたときは、審査対象外あるいは受賞取り消しとなる場合があります。
- C. 「生成AI」を利用してテーマに取り組むことも可能ですが、以下に留意してください。
 - 生成AIから得られた文章を「そのまま」自らのレポート・プレゼンテーション資料として提出することは禁止します。また、生成AIを活用してレポート・プレゼンテーション資料を作成する場合は、その内容について必ずファクトチェックを行ってください。そのうえで「注釈・資料」等により、「どの部分でどのように活用したか」について明記してください。
 - 企業から提供された情報を生成AIで分析する場合は、「AIが外部にデータを参照させないような設定を行う(オプトアウト)」あるいは「匿名性ある情報に加工する」などにより、情報漏洩とならないよう十分留意してください。企業側も情報を提供する際は、学生がAIを活用することも想定したうえで指導してください。
 - 参加企業がセキュリティ等の理由から「生成AIの利用を禁ずる」場合は、学生はその指示に従ってください。その場合、参加企業は、6月の企業説明会で、参加学生に対してその旨必ず説明してください。
 - 生成AIの利用を認める企業は、生成AIの活用方法が「優れている場合」や「不適切な場合」に評価を加減点することを検討して下さい。加減点を行った場合は、評価内容をフィードバックする際に明記してください。
- D. 参加大学・企業・学生は、本実施要綱のほか、各実施細則(レポート作成規程を含む)に定められた事項を遵守してください。また、記載のない事項につき、同友会より指示のあった場合は、その指示に従ってください。なお、感染症の流行状況によっては、本実施要綱・各実施細則に記載の事項がやむを得ず変更となる場合があります。その場合は、速やかに同友会より連絡をさせていただきます。

2026年2月12日制定

2026年3月25日一部改訂